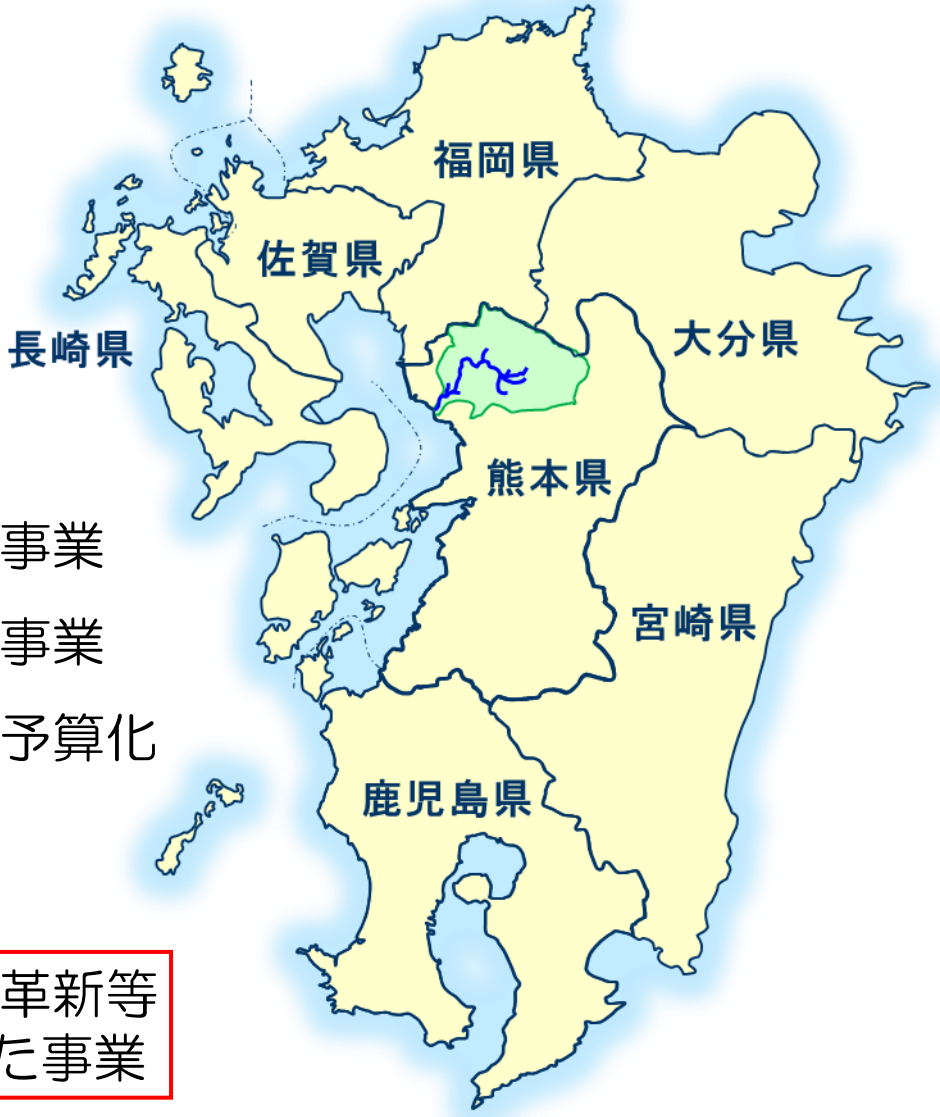
令和８年度 菊池川学識者懇談会資料

資料－１

菊池川（きくち）総合水系 環境整備事業



① 事業採択後３年経過して未着工の事業

② 事業採択後５年経過して継続中の事業

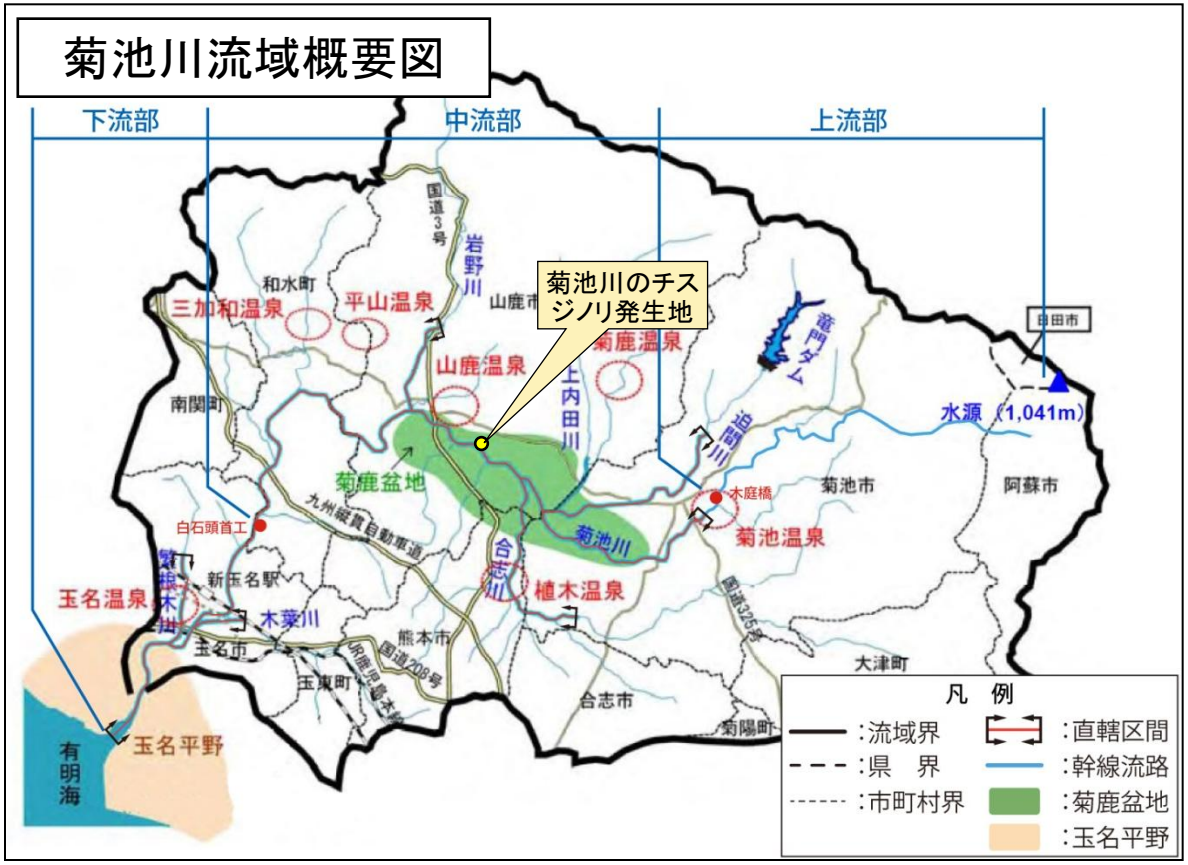
③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後３年経過した事業

④ 再評価実施後５年経過した事業

⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

●流域の概要、河川環境をとりまく状況



■各区間の特徴

＜上流部＞

・広葉樹の自然林が広く分布。

・渓流にはカワガラス、ヤマメ等が生息。

＜中流部＞

・田園地帯を蛇行しながら流下。

・分田橋から山鹿大橋までの区間は「菊池川のチスジノリ発生地」として国の天然記念物に指定されている。

＜下流部＞

・白石頭首工までは感潮区間。

・有明海特有の大きな干満差による潮位変動の影響が及ぶ。

・河口部に広がる干潟にはヤマトシジミが生息。

■菊池川の概要

流域面積	：996km^2	流域内人口	：約20万人※
幹川流路延長	：71km	流域内市町村	：7市5町

※国土交通省「河川関係統計データ」
：平成22年国勢調査をもとに算出

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

●菊池川水系の河川環境の整備と保全に関する目標

◆ 菊池川水系では、これまでの流域の人々と菊池川との歴史的・文化的な関わりを踏まえ、菊池川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす良好な河川景観の保全に努め、重要種であるチスジノリ等をはじめ多様な動植物が生息・生育・繁殖する自然環境を保全・再生するとともに、住民の憩いの場や河川環境学習の場として地域に親しまれる河川空間を創出し、活力のある菊池川を次世代に引き継ぐよう努めるものとしている。

◆ 下流部の感潮区間では、かつてヤマトシジミが多数生息し、かつ住民の憩いの場でもあった砂浜が失われたことから、砂浜再生に取り組んだところであり、地域の意向を確認しながら継続して実施するものとしている。

◆ 流域住民の生活基盤や歴史、文化、風土を形成してきた菊池川の恵みを活かしつつ、カヌー等の河川利用、河川環境学習の場の整備・保全等、川や自然とのふれあいの場の確保に努めるものとしている。

◆ 上流部の渓流、中上流部の瀬・淵等や周辺の田園風景、下流部の高瀬船着き場と俵ころがしやハゼ並木等の歴史的遺構のほか、沿川の土地利用と調和した良好な水辺景観の維持に努めるものとしている。

※菊池川水系河川整備計画【平成23年9月】抜粋

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（1）地域開発の状況

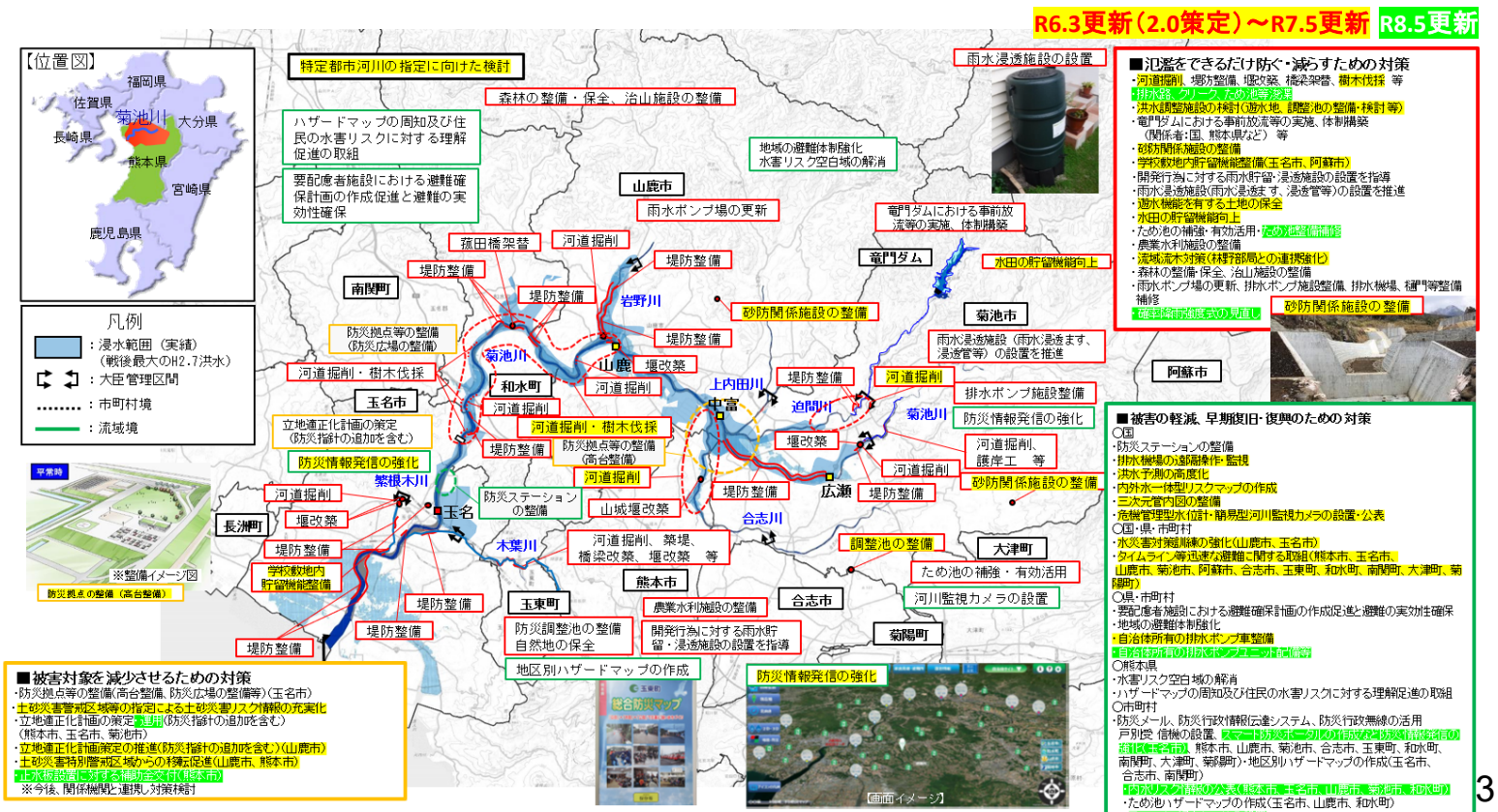
【菊池川水系流域治水プロジェクト2.0 ～流域治水の加速化・深化～ 】

・「流域治水」に関する地域での取組を推進するため、河川整備に加え、流域のあらゆる関係者が協働して行う対策も含めた治水対策の全体像を「流域治水プロジェクト」としてとりまとめた。

・気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

近年各地で大規模な洪水が頻発するなか、菊池川水系においても平成24年7月洪水では越水等による甚大な被害が発生しており、以下の取り組みを一層推進する。国管理区間においては、気候変動（2℃上昇）下でも目標とする治水安全度を維持するため、戦後第2位流量を記録したS57.7洪水に対し2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水を、安全に流下させることを目指す。

堤防整備や河道掘削等の事前防災を引き続き推進し、洪水時の急激な水上昇を抑制するために、洪水調節施設の整備による貯留機能の確保を図る。また、流出抑制対策の検討や特定都市河川の指定に向けた検討等、流域市町村が一体となった防災・減災対策を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

※流域治水プロジェクト2.0抜粋

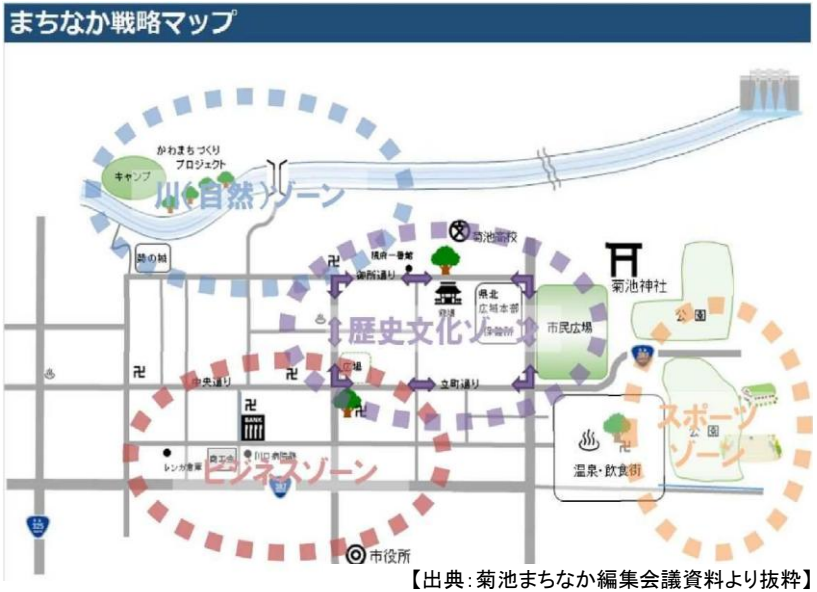
1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（1）地域開発の状況

【自治体の取組】（菊池市：かわまち・もりまち・桜の里づくり、菊池のしらべ）

・菊池市では、まちなか中心部の活性化を図るためまちなか戦略を策定し、「かわまち・もりまち・桜の里づくり」等により観光地としてまちづくりを進めている。「かわまち」により川（自然）ゾーンに位置する玉祥寺地区の迫間川とまちなかとつなげ、「もりまち」によりまちなか中心部全域の空き地等に植樹し緑陰のある落ち着いた街並みを整備し、「桜の里づくり」により桜の植樹や管理を行っている。その他、関係機関等の補助制度を活用しながらボランティア活動による花いっぱい運動への支援や歴史文化ゾーンでのガーデニングコンテストを行うなど、観光地としてのまちなか中心部のまちづくりを進めている。

・同じくまちなか中心部において 、かわまちづくりの整備箇所となる迫間川に続く御所通りの一部（歴史文化ゾーン）を歩行者天国にし、菊池松囃子能場を舞台とした日本舞踊・伝統芸能の披露、様々な美味が並んだ屋台、町なかの魅力を探すスタンプラリー等を行う「菊池のしらべ」を開催している。



【出典：菊池まちなか編集会議資料より抜粋】

⇒里山の古都の癒し（グルメ、温泉、歴史）

×ウォーカブル ×ワーケーション



【写真出典：菊池市提供】

「もりまち」による空き地への植樹（まちなか中心部全域）



【写真出典：菊池市HP】

「桜の里づくり」による桜の植樹（菊池市内全域）



【写真出典：菊池市提供】

花いっぱい運動への支援（菊池市内全域）



【写真出典：菊池市提供】

「菊池のしらべ」開催の様子

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（1）地域開発の状況

【自治体の取組】（和水町：第3期 和水町まち・ひと・しごと創生総合戦略、デジタルスタンプラリー）

・和水町では、町内の自然や歴史・文化資源を活かした地域活性化を図るため、「デジタル田園都市構想の実現に向けた第3期和水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、観光振興や交流人口の拡大に向けた取組を進めている。

・町内では、ボランティア団体等による花植えや緑化活動への支援を行うとともに、江田船山古墳公園や肥後民家村などの歴史文化資源を活用した祭りやイベントの開催、ライトアップ等の取組を通じて、来訪者が地域の魅力に触れる機会の創出を図っている。

・また、町内の歴史文化資源や観光スポットを巡るデジタルスタンプラリー等の取組を通じて、来訪者の回遊性を高めるとともに、Webやデジタルツールを活用した情報発信により、町の魅力を効果的に伝える取組が進められている。


【写真出典：和水町HP】

江田船山古墳



【写真出典：菊池川流域日本遺産HP】

肥後民家村





出典：和水町観光協会HP（https://nagomi-kankou.jp/digi）

ナルホド×デジタルスタンプラリー



【写真出典：菊水ロマン館HP】

なごみ古代 竹あかり（江田船山古墳）


【写真出典：和水町HP】

火巫女・ムリテの舞（和水町古墳祭）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2)地域の協力体制

◆菊池川流域において、川を活かした地域づくりや川遊び、また、川をテーマにした環境問題の取組みなど、川を中心とした活動を行っている団体等が「菊池川の水を飲めるように」を合い言葉に集まり、流域内の地域連携・地域活性化を図ることを目的として平成15年3月に「菊池川流域連携会議」が結成された。

◆菊池川流域連携会議では、所属団体が連携して川の清掃活動、カヌーやSUP体験、生物観察学習会、シンポジウム、ロープレスキュー等の活動を展開している。また、定期的に連携会議（役員会・総会）の開催・運営を行っており、今後も引き続き地域の協力が見込まれる。

菊池川流域連携会議　所属団体

市町	所属団体
玉名市	菊池川おおかわの会
和水町	一般社団法人　ネイチャー・サイエンス　スクール
山鹿市	下町惣門会、かわんたみ、水辺プラザかもと、菊池川漁業協同組合、菊池川自然塾、菊池川育てネット
菊池市	菊池川キッズ探検隊、竜門倶楽部、竜門ダムで遊び学ぶ会、菊池法人会青年部会、七城バカボン会



川の清掃活動（ブラジルチドメグサ駆除）



カヌー体験



菊池川自然塾（生物観察学習会）



菊池川あそび（SUP体験）



魚をとってきくちがわを観察する体験塾



菊池川流域連携会議　設立20周年記念事業シンポジウム

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2)地域の協力体制(菊池地区かわまちづくり)

◆平成30年8月に「菊池市かわまちづくり会議」、平成30年10月には地域住民・菊池市・学識者・国土交通省等により構成された「菊池市かわまちづくり計画検討協議会」を立ち上げ、かわまちづくり計画の検討を進め、平成31年3月に「菊池市かわまちづくり」としてかわまちづくり支援制度の認定を受けた。

◆かわまちづくり計画策定後の令和2年度以降は推進協議会を開催し、地域による迫間川の維持管理方針や、隈府・玉祥寺を含めた迫間川周辺の利活用に関する協議を継続的に開催しており、今後も引き続き地域の協力が見込まれる。

◆整備箇所の利用と管理については、整備前・整備中・整備後においても地域住民の参画による迫間川の水辺の活発な利用が行われており、菊池川キッズ探検隊やかわびらき、まちあるき等の様々なイベントも開催されている。また、イベント開催前には地域住民と協働の維持管理会も開催されている等、整備後も継続的な利用と管理が見込まれる。

◆今後は推進協議会等の位置付けを見直しつつ、営利活動の展開も視野にいれながら継続的な利用と管理を推進していく予定である。



平成30年から「推進協議会」や「かわまちづくり会議」で協議

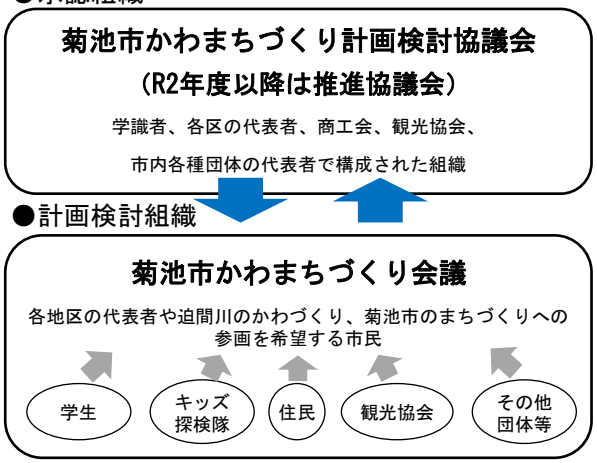


地域住民で構成された「菊池川キッズ探検隊」



かわまちづくり かわびらき
(令和4年から毎年開催)

菊池地区かわまちづくり推進体制



推進協議会、かわまち会議の実施状況

組織名	実施年度	参加者
菊池市かわまちづくり 会議	H30年度～	大学生、高校生、上記推進協議会を構成する地区の住民及び観光協会、活動団体等の関係団体のうち、参加希望者
菊池市かわまちづくり 計画検討協議会	H30年度～	熊本大学大学院先端科学研究部、上町区、中町区、下町区、玉祥寺区、菊池市商工会、一般社団法人菊池観光協会、御所通り繁栄会、御所通り景観形成協議会、菊池川河川事務所、菊池市
菊池市かわまちづくり計画 推進協議会	R2年度～	熊本大学大学院先端科学研究部、上町区、中町区、下町区、玉祥寺区、菊池市商工会、一般社団法人菊池観光協会、御所通り繁栄会、御所通り景観形成協議会、菊池川河川事務所、菊池市

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2)地域の協力体制(和水町かわまちづくり)

◆令和6年7月に地域住民・和水町・国土交通省等により構成された「和水町かわまちづくり推進協議会」を、同年10月には「和水町かわまちづくりワーキンググループ」を設立し、かわまちづくり計画の検討を進めてきた。検討の結果、令和8年3月に和水町かわまちづくり計画を策定し、同年8月には「かわまちづくり」支援制度に基づき計画が登録された。

◆和水町では、社会実験としてイベント開催を重ねつつ、会議等を通じて利用と管理に関する協議を継続的に行ってきた結果、事業への理解が深まり、地域の協力体制が整っていることから、今後も地域の協力が見込まれる。



「和水町かわまちづくり推進協議会」
開催状況



ワーキンググループでの
現地視察の状況

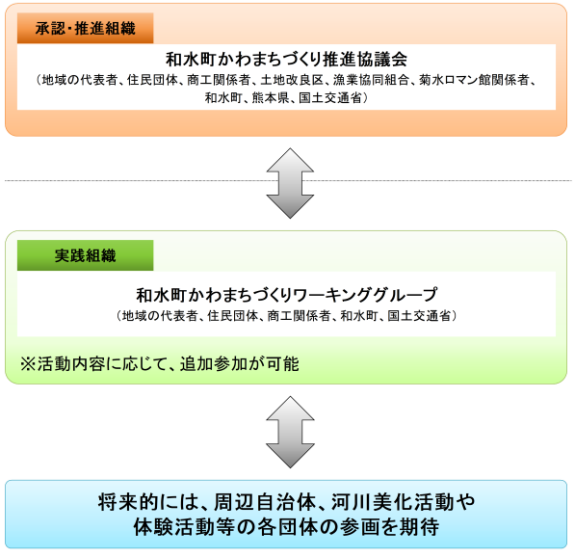


社会実験「ピクニックシネマ」開催状況



川下り開催前に主催者・関係者により
事前準備を実施

和水町かわまちづくり推進体制



推進協議会、ワーキンググループの実施状況

組織名	実施年度	参加者
和水町かわまちづくり推進協議会	令和6年度～	玉名平野土地改良区、菊池川漁業協同組合、和水町観光協会、白石区、馬場区、大江田区、藤田区、前原区、内田区、長小田区、菊水ロマン館指定管理者、和水江田川カヌー・キャンプ場指定管理者、肥後民家村、熊本県、菊池川河川事務所、和水町
和水町かわまちづくりワーキンググループ	令和6年度～	(株)菊水ロマン館、(株)ティーシーエイ、(一社)ネイチャーサイエンススクール、玉名郡水泳協会、和水町水泳協会、白石区、馬場区、大江田区、藤田区、前原区、内田区、長小田区、和水町観光協会、肥後民家村工房の森、和水町地域おこし協力隊、熊本県、菊池川河川事務所、和水町

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3)関連事業との整合 / 菊池川水系全体

◆菊池川総合水系環境整備事業の上位計画である菊池川水系河川整備計画【平成23年9月】では、基本理念を「菊池川のやすらぎと清流を未来へ」としており、河川環境の目標では菊池川らしい河川環境と良好な河川景観、水辺空間を保全・創出し、次世代へ引き継ぐこととしている。

◆菊池川総合水系環境整備事業はこれらの目標を見据えて事業を推進しているところであり、事業を通じて着実に目標を達成しつつある状況である。

～菊池川のやすらぎと清流を未来へ～

治　水　洪水から流域を守る川づくりと地域の防災力向上を目指します。

- 菊池川流域では、過去より、洪水被害が頻発している中、現在でも洪水に対して十分な安全度が確保されていません。そこで、河川整備計画で定めた洪水対策等を行うことで昭和57年7月洪水等と同規模の洪水を菊池川本支川からはん濫させることなく、概ね安全に流下させることができるようになります。
- 洪水時の被害を最小限に抑えるため、迅速かつ的確な防災情報の提供等を行うとともに、災害に強い地域を目指し、自助・共助・公助体制の構築等の危機管理体制の充実を目指します。
- 堤防や水門等の施設の機能及び河道の治水機能を維持するため、的確な管理を行います。

利　水　限りある川の恵みを大切にしていきます。

- 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に努めていきます。

環　境　菊池川らしい河川環境と良好な河川景観、水辺空間を保全・創出し、次世代へ引き継ぎます。

- 菊池川の多様な動植物が生息・生育・繁殖する河川環境と良好な河川景観等を保全します。
- 地域住民の憩いの場となる水辺空間等を地域住民や関係機関と連携しながら創出していきます。
- 水質の保全と向上を地域住民や関係機関と連携しながら進めていきます。
- 菊池川を次世代に引き継いでいくために、学校関係者、自治体、住民団体と連携しながら、河川環境教育等を行います。

歴史・文化　古くから流域住民の生活に密接していた菊池川流域の歴史・文化を継承していきます。

- 菊池川流域で加藤清正の「石はね」、「ハゼ並木」といった現在も受け継がれている歴史、文化を保全し、次世代に継承します。
- 既存の観光資源と連携しながら、新たな歴史、文化、観光が創出される川づくりを目指します。

※菊池川水系河川整備計画【平成23年9月】抜粋



自然環境を保全・創出する整備内容検討のための専門家現地視察



地域住民と関係機関で構成された会議による憩いの場や水辺空間創出のための計画づくり



流域活動団体の活動内容についての意見交換（菊池川流域連携会議定期総会）



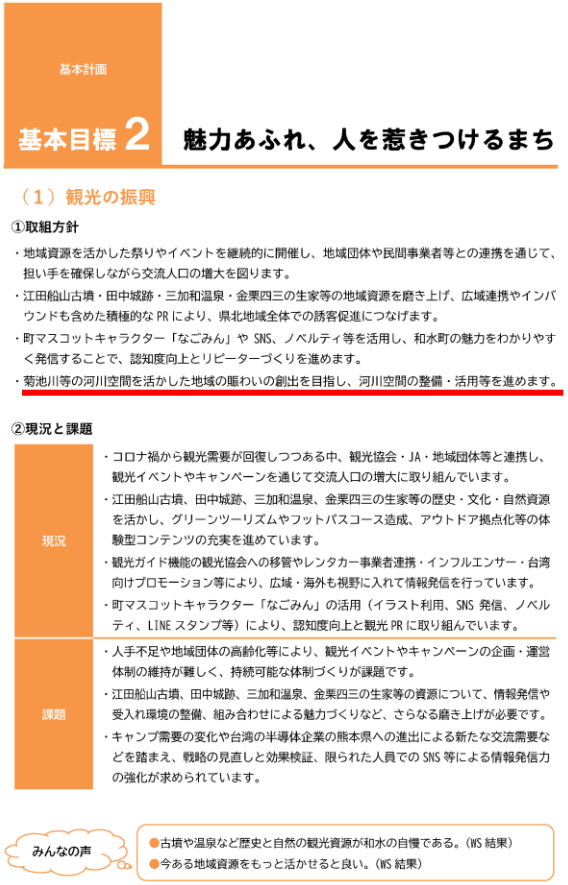
菊池川を観察する体験塾（流域住民団体等による取組）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3)関連事業との整合 / 和水町

【第３次和水町まちづくり総合計画（令和8年6月策定）】

◆「第３次和水町まちづくり総合計画」において、目指す将来像を「温もりをつなぎ 誇りを育む わたしたちの和水町」とし、観光の振興やスポーツ、環境保全など、河川空間をまちづくりに活かす「かわまちづくり」の趣旨と関連性の高い施策が多く掲げられている。このうち「観光の振興」施策において町が進めるかわまちづくり事業が主な施策に位置付けられている。



基本計画

基本目標 2　魅力あふれ、人を惹きつけるまち

（1）観光の振興

①取組方針

・地域資源を活かした祭りやイベントを継続的に開催し、地域団体や民間事業者等との連携を通じて、担い手を確保しながら交流人口の増大を図ります。
・江田船山古墳・田中城跡・三加和温泉・金栗四三の生家等の地域資源を磨き上げ、広域連携やインバウンドも含めた積極的な PR により、県北地域全体での誘客促進につなげます。
・町マスコットキャラクター「なごみん」や SNS、ノベルティ等を活用し、和水町の魅力をわかりやすく発信することで、認知度向上とリピーターづくりを進めます。
・菊池川等の河川空間を活かした地域の賑わいの創出を目指し、河川空間の整備・活用等を進めます。

②現況と課題

現況	・コロナ禍から観光需要が回復しつつある中、観光協会・JA・地域団体等と連携し、観光イベントやキャンペーンを通じて交流人口の増大に取り組んでいます。 ・江田船山古墳、田中城跡、三加和温泉、金栗四三の生家等の歴史・文化・自然資源を活かし、グリーンツーリズムやフットパスコース造成、アウトドア拠点化等の体験型コンテンツの充実を進めています。 ・観光ガイド機能の観光協会への移管やレンタカー事業者連携・インフルエンサー・台湾向けプロモーション等により、広域・海外も視野に入れて情報発信を行っています。 ・町マスコットキャラクター「なごみん」の活用（イラスト利用、SNS 発信、ノベルティ、LINE スタンプ等）により、認知度向上と観光 PR に取り組んでいます。
課題	・人手不足や地域団体の高齢化等により、観光イベントやキャンペーンの企画・運営体制の維持が難しく、持続可能な体制づくりが課題です。 ・江田船山古墳、田中城跡、三加和温泉、金栗四三の生家等の資源について、情報発信や受入れ環境の整備、組み合わせによる魅力づくりなど、さらなる磨き上げが必要です。 ・キャンプ需要の変化や台湾の半導体企業の熊本県への進出による新たな交流需要などを踏まえ、戦略の見直しと効果検証、限られた人員での SNS 等による情報発信力の強化が求められています。

みんなの声
●古墳や温泉など歴史と自然の観光資源が和水の自慢である。(WS 結果)
●今ある地域資源をもっと活かせると良い。(WS 結果)

30

③主要施策

1．地域資源を活かした観光イベントの実施

地域団体等との連携やイベント実施の担い手確保への取組を進め、和水町古墳祭や戦国肥後国衆まつり等の観光イベント等を定期的に実施します。

関連事業	担当課
和水町古墳祭、戦国肥後国衆まつり	まちづくり課

2．地域資源を活かした観光誘客と交流促進

関係機関や民間事業者等との連携のもと、江田船山古墳、田中城跡、三加和温泉、金栗四三の生家等の地域資源の磨き上げを推進するとともに、菊池川流域や中山間地域等、町の地域性を活かした活性化と積極的な観光 PR を進め、インバウンドを含めた観光誘客と交流の促進を図ります。

関連事業	担当課
観光 PR 事業、グリーンツーリズム推進事業（フットパス検討）、観光案内の会、ふるさとガイド、かわまちづくり事業、国際交流事業	まちづくり課 総務課

3．広域観光の推進

県北地域（玉名市・山鹿市・菊池市・和水町）と連携し、インバウンド誘客や地域性を活かした観光戦略を進め、広域連携での誘客促進を図ります。

関連事業	担当課
熊本県北観光協議会事業	まちづくり課

4．マスコットキャラクターの活用

町マスコットキャラクター「なごみん」が各種イベントに参加することにより、シンボルとしての情報発信と誘客促進を図ります。

関連事業	担当課
イラスト使用許可、インスタグラム運営・活用、ノベルティグッズ作成・配布、LINE スタンプ管理	まちづくり課

④成果指標

成果指標	指標名	現状値（令和６年度）	目標値（令和 11 年度）
	観光入込客数	562,609 人	600,000 人

序論 / 基本構想 / 基本計画 / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 資料編

31

※第３次和水町まちづくり総合計画（令和8年6月策定）抜粋

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（4）河川環境等をとりまく状況（自然環境）

◆上流部は、山間部を流下し、ケヤキ、モミ、ブナといった広葉樹の自然林が広く分布している。菊池渓谷に代表される渓流にはヤマメ、カジカガエル等が生息している。

◆中流部は、田園地帯を蛇行しながら流下し、分田橋から山鹿大橋までの区間は「菊池川のチスジノリ発生地」として国の天然記念物に指定されている。中流部には多くのタナゴ類が生息するほか、水際にはツルヨシ群落や竹林等の河畔林が分布しておりオヤニラミ、オオヨシキリ等が生息している。

◆下流部は、白石頭首工より下流側の感潮区間で有明海特有の大きな干満差による潮位変動の影響が及んでいる。砂底にはヤマトシジミ等が生息しており、河口部に広がる泥底にはムツゴロウも生息している。

◆上記は、平成23年9月の菊池川水系河川整備計画策定以降、令和8年現在においても経年的に確認されている。



ヤマメ（上流部）



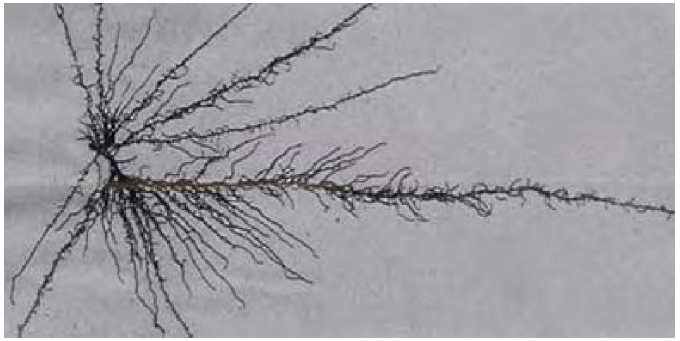
ニッポンバラタナゴ（中流部）



ヤマトシジミ（下流部）



カジカガエル（上流部）



チスジノリ（中流部）



ムツゴロウ（下流部）

※菊池川水系河川整備計画【平成23年9月】抜粋

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（4）河川環境等をとりまく状況（歴史及び文化）

【写真出典：菊池川流域日本遺産HP（https://www.kikuchigawa.jp/）】

◆菊池川流域では、約二千年にわたる米作りの歴史と景観・祭り・食文化等を一体にした「菊池川流域日本遺産　米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～」として登録されている。代表的なものとしては、豪華な副葬品が出土した「江田船山古墳」、絵画等の装飾が施された「チブサン古墳」、古代の軍事補給基地として造られた山城で発掘調査により大量の炭化米、米倉跡が確認された「鞠智城跡」、明治中期築造が総延長5.2㎞にわたる大規模な干拓施設群「旧玉名干拓施設」等があり、菊池川流域の米作りを支えた先人たちによる土地利用の広がりが今も姿を留め、その全てをコンパクトに見ることができる。

◆菊池川の源流をなす「菊池渓谷」は日本名水百選の一つであり、四季折々の景観で県内外からの観光客も多い。

◆流域内では歴史や文化に関連した祭りも多く、重さ1tの俵を転がしてタイムを競う「玉名大俵まつり」、金灯篭を頭に掲げた女性たちが優雅に舞い踊る「山鹿灯篭祭り」、和水町の豊かな農産物として山太郎ガネ（モクズガニ）をいただく「山太郎祭」等がある。



江田船山古墳



鞠智城跡（山鹿市、菊池市）



旧玉名干拓施設（玉名市）



菊池渓谷（菊池市）



山鹿灯篭祭り（山鹿市）



山太郎祭（和水町）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(5)河川の利用状況

◆菊池川流域の河川敷は、散策やサイクリングに利用されているほか、イベント会場、サッカーやラグビー等のスポーツ広場等として利用されている。

◆菊池川では、重要な観光資源となっている高瀬裏川花しょうぶまつりや玉名花火大会(玉名市)、山太郎祭inなごみ(和水町)、伝統的な催しである山鹿灯籠まつり(山鹿市)、竜門ダムフェスタ(菊池市)等、多くの地域イベントが開催されている。

◆菊池川自然塾(山鹿市)、キッズ探検隊(菊池市)、川下り体験(和水町)等菊池川の豊かな河川環境を活かした子どもたちの体験学習が活発に実施されている。

◆菊池川流域の4市町(玉名市・和水町・山鹿市・菊池市)は、平成29年4月に“米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～”のストーリーで日本遺産の認定を受けた。日本遺産認定によって菊池川を活かしたまちづくりのニーズが高まっており、「菊池川流域日本遺産協議会」を中心に、流域が連携した広報や観光商品・コンテンツ開発等の取り組みが進行中である。



玉名花火大会(玉名市:高瀬地区)



菊池川あそび(玉名市:高瀬地区)



川下り体験(和水町)



水生生物調査(菊池市:菊池地区)



竜門ダムフェスタ(菊池市)



サッカー大会(山鹿市:山鹿地区)

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

＜事業評価（再評価）対象事業の概要＞

区　分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	菊池（きくち）地区	令和 2年度～令和 9年度（予定）	継続箇所
	和水（なごみ）町	令和 9年度～令和 21年度（予定）	新規箇所
菊池川総合水系環境整備事業		令和2年度～令和 21年度（予定）	

※自然再生（菊池川下流）、水辺整備（鹿本地区、白石地区、山鹿地区、高瀬地区）は完了評価済みのため、今後の事業評価の対象外とする



凡　例	
	流域界
	河川
	市町村界
	完了事業箇所
	継続事業箇所
	新規事業箇所

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

(1)事業の投資効果

項　目	前回評価時 (令和6年度)	今回評価時 (令和8年度)	変更理由
総事業費	約25.3億円 【自然再生】 ・菊池川下流地区：約3.7億円 【水辺整備】 ・鹿本地区　：約4.9億円 ・白石地区　：約4.1億円 ・山鹿地区　：約5.0億円 ・高瀬地区　：約2.7億円 ・菊池地区　：約5.0億円	約10.8億円 【水辺整備】 ・菊池地区　：約5.0億円 ・和水町　　：約5.8億円	・水辺整備事業の新規事業(和水町)による事業費の追加。 ・完了評価済み整備事業の事業計画からの除外による事業費の削減及び便益の変更。 ・集計世帯数の更新による便益の変更。 ・工事諸費を計上しないことによる費用の変更。 ・現在価値化による更新。
整備完了年	令和9年度	令和 21年度	
B／C	2.1	6.0	
B(便益)	約120.5億円	約56.8億円	
C(費用)	約58.5億円	約9.4億円	

※令和7年度より、工事諸費を除いた額をC（費用）として算出

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせることにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせることにより算出する。

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

＜費用対効果等＞

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B／C	EIRR
全事業	10.8 億円	－	56.8 億円	9.4 億円	6.0 ※社会的割引率 1%の場合： 11.5 2%の場合： 9.2	16.9%
継続箇所	10.8 億円	－	56.8 億円	9.4 億円	6.0	－
水辺整備	10.8 億円	－	56.8 億円	9.4 億円	6.0	－
菊池地区	5.0 億円	管理用通路、緩傾斜護岸、 モニタリング調査 等	40.0 億円	5.7 億円	7.0	－
和水町	5.8 億円	親水護岸、高水敷整正、 モニタリング調査 等	16.7 億円	3.7 億円	4.6	－
残事業	5.9 億円	親水護岸、高水敷整正、 モニタリング調査 等	17.5 億円	3.8 億円	4.7 ※社会的割引率 1%の場合： 9.6 2%の場合： 7.5	12.9%

※数字は小数点第2位で四捨五入。そのため、積み上げによって合計値の小数点第1位に誤差が生じることがある。
※工事諸費を除いた額をC（費用）として算出。
※B/Cの算出にあたり、社会的割引率は全事業において4%を適用しているが、最新の社会情勢等を踏まえ、
比較のために参考とすべき値を2%及び1%と設定し、令和5年度以降に適用した場合の算出結果を示した。

箇所名	アンケート 実施時期	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計対象 世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
菊池地区	令和元年度	2,000	321	半径10km圏内(流域内)	42,485	380
和水町	令和8年度	2,100	429	半径10km圏内(流域内)	27,311	396

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

＜費用対効果等（感度分析）＞

項目		基本ケース	感度分析					
			事業費		工期		資産	
			＋10%	－10%	＋10%	－10%	＋10%	－10%
全事業	便益：B（億円）	56.8	56.8	56.8	56.9	56.7	62.4	51.1
	費用：C（億円）	9.4	9.7	9.0	9.3	9.4	9.4	9.4
	B/C	6.0	5.8	6.3	6.1	6.0	6.6	5.4
残事業	便益：B（億円）	17.5	17.5	17.5	17.6	17.4	19.3	15.8
	費用：C（億円）	3.8	4.1	3.4	3.7	3.8	3.8	3.8
	B/C	4.7	4.3	5.1	4.7	4.6	5.1	4.2

○事業費、工期、資産がそれぞれ±10%に変動した場合のB/Cを算出した。
○すべてのケースでB/Cが1.0以上となった。

1. 事業の必要性　②事業の投資効果

≪効果名≫　　【効果の概要】

①便益の算出：約５６．８億円
（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

②地域のにぎわいの創出　：水辺イベントの開催の場
地域のイベント広場としての活用
P6、P7、P8、P13

③治水安全性の向上　：河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化
P18、P21

④良好な自然環境の保全　：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動
河川を活用した野外学習（水生生物調査等）
P6、P7、P8、P27

⑤費用対効果分析（算定に用いた効果①）　全体事業（Ｂ／Ｃ）：６．０
残事業　（Ｂ／Ｃ）：４．７

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(1)事業の進捗状況 (継続箇所:菊池地区(水辺整備))

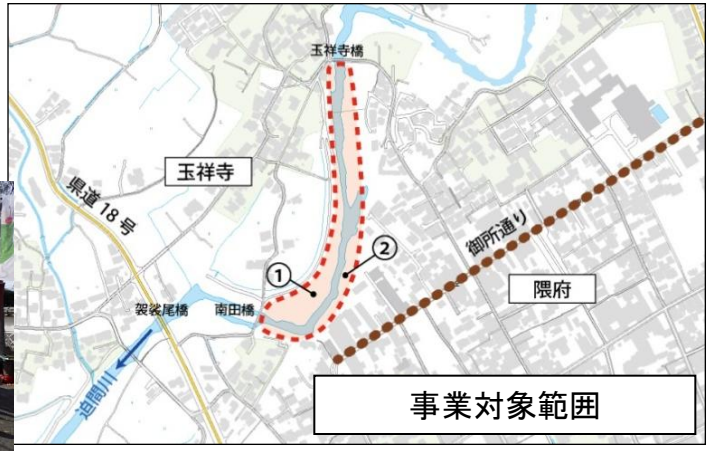
1)事業の必要性

◆菊池市では、中心市街地の活性化を目的として、「まちなかウォーカブルシティ基本構想」等に基づき、人が歩いて回遊し、滞在しやすいまちづくりを進めている。「かわまちづくり事業」は、上記のまちづくりの一翼を担っており、隣接する御所通りとともに、迫間川と一体となった新たな賑わいの創出が期待されている場所である。

◆訪れた観光客をまちなかに誘導して滞在時間を延ばし、飲食や宿泊等菊池市の経済効果につなげるため、まちなかの自然資源である迫間川への周遊散策路や河川空間での滞在場所が必要である。

◆事業対象範囲は、整備前も魚釣りや川遊び、水生生物調査等で利用されていたが、河岸部までの通路が無かったため水辺に近づきにくく、高水敷や河岸部に不陸や段差があるため、安全な水辺の利用が困難な状態であった。加えて、右岸側には砂州が堆積し、管理上も支障がある状態であった。











事業対象範囲の整備前の状況(左:魚釣り、中央:川遊び(遊泳)、右:水生生物調査)



写真①:高水敷と川までの間に段差があり、植物も繁茂していたため、川に安全に近づくことができなかった。



写真②:左岸側には散策できる道等が整備されていなかったため、川岸を回遊することができなかった。

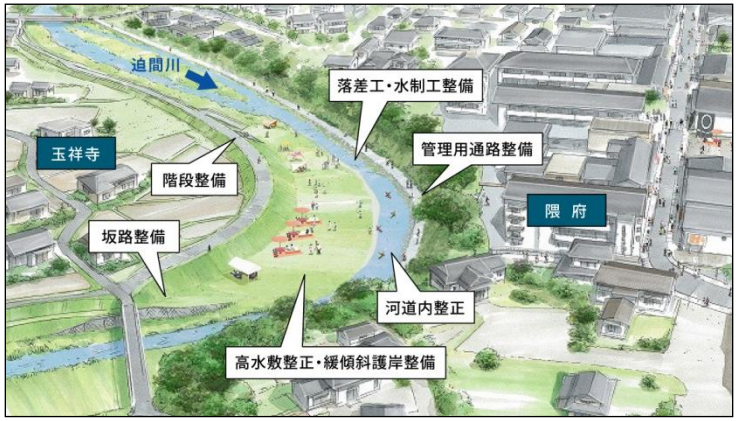
1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況



かわまちづくり登録証伝達式
（平成31年3月14日）

2）事業の目的・内容

◆地域住民・学識者・菊池市・河川管理者等が知恵を出し合い、まちなかの自然資源である迫間川周辺地域の一体的な活性化と、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、緩傾斜護岸および管理用通路等を整備した。



菊池地区整備対象全域図（整備イメージ）



整備の例（管理用通路整備、緩傾斜護岸整備）

【概要】

位置	迫間川　7k400～7k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	緩傾斜護岸、管理用通路 等
事業費	5.0億円
整備完了年	令和 4年度
事業期間	令和 2年度～令和 9年度（予定）

【工程表（予定）】

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
河道内整正	■	■						
管理用通路整備		■	■					
落差工、水制工整備			■					
高水敷整正・緩傾斜護岸整備		■	■					
坂路、階段整備		■						
測量設計等	■	■	■					
モニタリング等				■	■	■	■	■

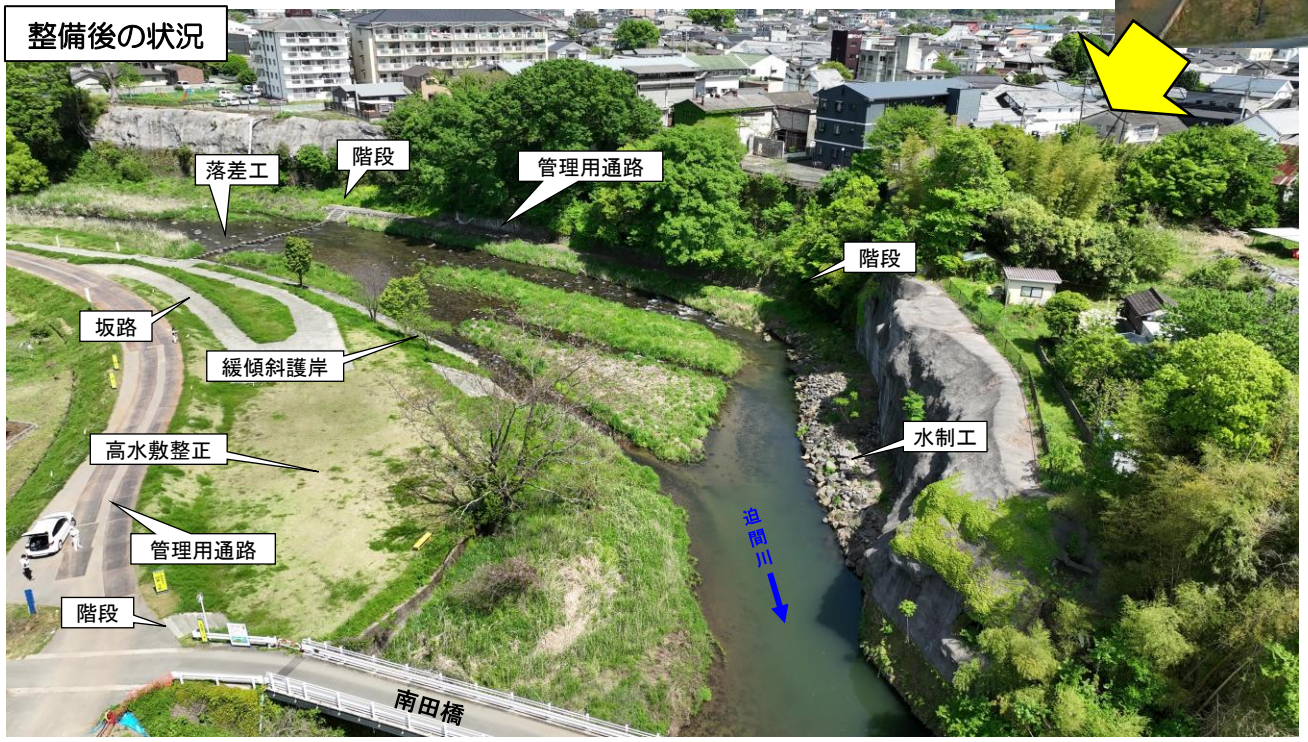
1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

３）事業の現状

◆菊池地区においては、令和２年度～４年度に整備を行った。現在は整備完了しており既に地域住民により日常利用のみでなく川びらき等のイベント開催の場として有効活用されている。

◆整備完了後は、推進協議会等の位置付けを見直しつつ、営利活動の展開も視野にいれながら、地域住民が主体となり菊池市と密に連携しながら利用と管理の両面を実践しているところである。





整備後の利用状況

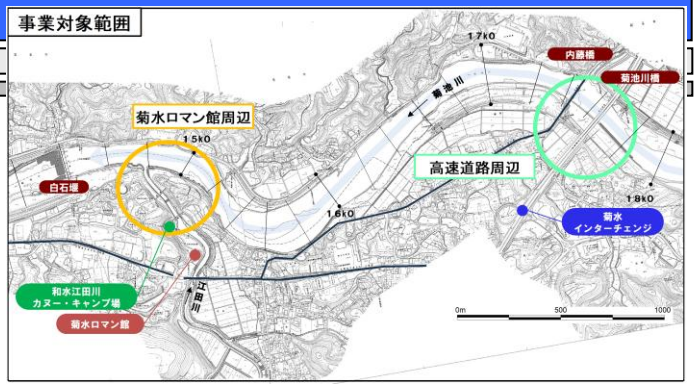


地域の幼稚園による散策利用状況



地域住民による「川びらき」の開催状況

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況



（2）事業の進捗状況 （新規箇所：和水町（水辺整備））

１） 事業の必要性

◆和水町は、豊かな自然環境や多くの歴史的・文化的資産を有し、その中でも町内を流れる菊池川は、生活・産業・観光を支える基盤として、和水町をはじめ流域市町に多大な恵みをもたらしてきた。菊池川流域は日本遺産にも認定されるなど、全国的にも誇れる地域資源であり、和水町になくてはならないシンボル的存在である。

◆菊池川・江田川沿いに位置する道の駅「菊水ロマン館周辺」は、カヌー・キャンプ場や古墳、公園が隣接する町最大の観光エリアである。また、「高速道路周辺」は九州自動車道菊水ICを擁する立地から、熊本県北地域の玄関口として高いポテンシャルを有している。

◆現状では、まちとかわ、高水敷と水辺へのアクセスが十分でなく、河川敷に安全・安心・快適に利用できるまとまった空間が少ないなど、事業対象箇所には河川利用上の課題がある。

■主な課題一覧（橙：菊水ロマン館周辺／緑：高速道路周辺）

アクセス性	・水辺に近づけない ・車両進入が困難 ・回遊できるアクセス路が不足 等
安全性	・幅員が狭く、安全な車両通行が困難 ・橋脚周辺の洗堀対策 等
利便性	・トイレが破損している ・水辺利用スペースや中継地点が不足 等
維持管理性	・管理用通路の改良 ・高水敷の土砂堆積・雑草繁茂が著しい 等



菊水ロマン館周辺



高速道路周辺

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2）事業の目的・内容

◆地域住民・市民活動団体・和水町・河川管理者等が知恵を出し合い、和水町の歴史的な史跡を活かしながら安全で快適な水辺空間を創出するとともに、菊池川を軸とした地域の活性化や地域交流の促進、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、親水護岸、高水敷整正、管理用通路等の整備を実施する。

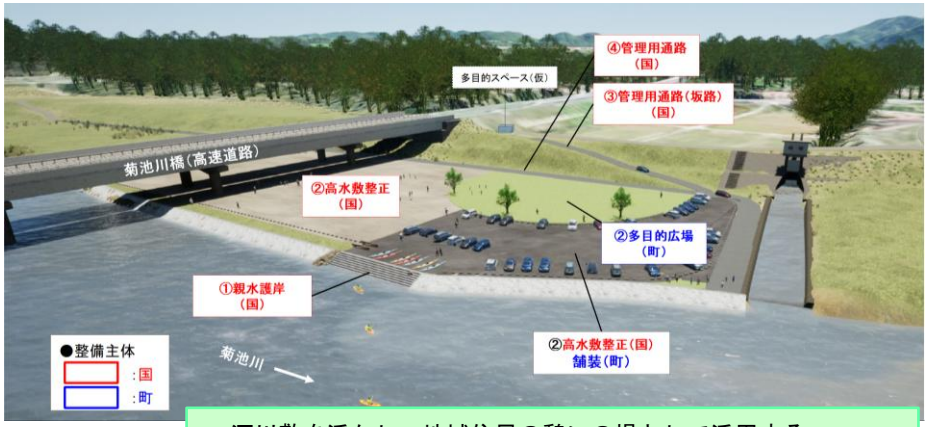
【整備イメージ】

菊水ロマン館周辺



・歴史や文化を活かし、菊水ロマン館周辺の滞在魅力向上を図る。
・イベントやアクティビティにより、町内外からの集客促進を行う。

高速道路周辺



・河川敷を活かし、地域住民の憩いの場として活用する。
・スポーツやレジャーを通じて、和水町のイメージ向上を図る。

【概要】

位置	菊水ロマン館周辺：菊池川14k000～15k400付近左岸 高速道路周辺　　：菊池川16k600～18k000付近左岸
事業区分	水辺整備
主な整備内容	親水護岸、高水敷整正、坂路、管理用通路　等
事業費	5.8億円　（国：5.4億円、和水町：0.4億円）
整備完了年	令和 16年度
事業期間	令和 9年度～令和 21年度（予定）

【工程表（予定）】

項目	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16	R 17	R 18	R 19	R 20	R 21
親水護岸					■	■	■						
高水敷整正		■	■	■	■	■	■	■					
坂路		■	■										
管理用通路			■					■					
測量設計等	■	■	■	■									
モニタリング等									■	■	■	■	■

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

３）事業の現状

◆和水町においては、かわまちづくり計画の立案に先立ち、ワーキンググループで議論した利活用メニューの中から社会実験として「水辺で乾杯」「オープンウォータースイミング」「川下り体験」「ピクニックシネマ」を開催し、利活用計画や整備プランの実現性を検証してきた。

◆これらの社会実験通じて課題を把握するとともに、地域住民を主体とした利用と管理の実施体制の強化が図られつつあり、和水町民からも拠点の魅力の再認知や利用環境向上の期待感が高まっている。

【社会実験実施状況】

水辺で乾杯　令和7年7月開催



川下り体験　令和7年9月開催





オープンウォータースイミング　令和7年8月開催





ピクニックシネマ　令和7年11月開催





2. 事業の進捗の見込み

（1）事業費の変更箇所 （新規箇所：和水町（水辺整備））

○和水町かわまちづくり計画の登録
　本工事費　約3.2億円

○「和水町かわまちづくり」は令和8年8月に「かわまちづくり」制度に計画が登録された。

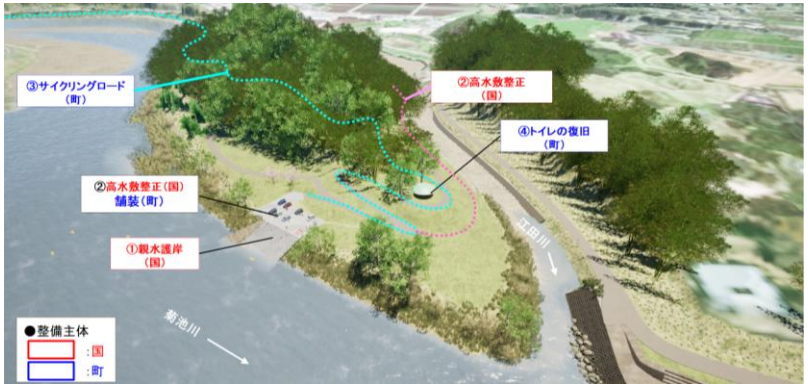
○本計画は、菊池川の歴史的な史跡を活かしながら安全で快適な水辺空間を創出するとともに、菊池川を軸とした地域の活性化や地域交流の促進を図るため、地域住民・市民活動団体・和水町・河川管理者等が知恵を出し合い、和水町における「かわとまち」を結ぶ一体的な整備や親水性に優れた河川空間の創出を進めていくものである。

【今回評価時の整備予定箇所】

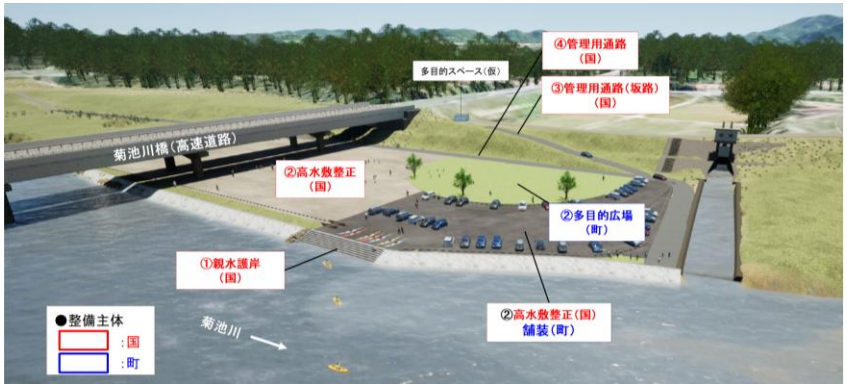


：今回追加した整備箇所　　：前回と同じ整備箇所

【整備イメージ】



菊水ロマン館周辺



高速道路周辺

2. 事業の進捗の見込み

（2）事業の実施状況

◆事業名：菊池川総合水系環境整備事業（熊本県）

◆計画（整備内容）：

＜水辺整備（菊池地区、和水町）＞
・河道内整正、管理用通路、落差工、水制工、高水敷整正、親水護岸、緩傾斜護岸、坂路、階段、モニタリング調査 等

◆総事業費：約10．8億円

◆整備期間：令和2年度から令和16年度

◆事業進捗率：45．4%（工事諸費込み）

◆残事業費：約5．9億円

◆事業の進捗状況：

・菊池地区は、整備が完了し現在モニタリング期間中である。令和8年度はモニタリングを継続し、令和9年度に事業を完了する見込みである。

・和水町は、令和7年度にかわまちづくり計画を策定、令和8年度に「かわまちづくり」支援制度に基づき、計画が登録された。その後もワーキンググループでの協議や立案した利活用計画、整備計画の実効性等を検証するための社会実験を行いながら、整備計画の具体化を予定している。

2. 事業の進捗の見込み

(3)今後の事業展開

◆菊池地区は、当初の計画から２年前倒して整備を完了し、令和４年度に整備が完了した。令和５年度からモニタリングを実施しており、令和９年度に完了予定である。

◆和水町の整備内容においては、かわまちづくり計画に基づき、整備の詳細を検討中の段階であり、令和１６年度に整備完了予定である。令和１７年度以降はモニタリングを実施し、令和２１年度に完了予定である。

(4)今後の事業の進捗の見込み

◆菊池地区では、整備前から継続的に社会実験を行い、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、地域の協力体制やイベント開催が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

◆和水町では、整備前から社会実験を行い、令和８年度も継続して実施予定であるため、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

【地域イベント・社会実験の様子】



菊池地区：かわびらき（令和8年7月25日）



和水町：川下り（令和7年9月7日）



和水町：ピクニックシネマ（令和7年11月8日）

3. 主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減や代替案立案等の改善

(1)主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画の検討

◆河川利用者の増加に伴う新たな課題やニーズの顕在化、菊池川をシンボルとした地域振興に対する機運の高まり等による和水町かわまちづくり計画の新規登録に伴い、総合水系環境整備事業計画について前回評価時から変更する。

(2)代替案の可能性の検討

◆菊池地区の整備内容は、「菊池市かわまちづくり推進協議会」、「菊池市かわまちづくり会議」で議論を重ねた上で整備内容を検討しており、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が適切と考えている。
令和6年度現在は整備完了後のモニタリング段階であり、令和９年度に完了予定である。

◆和水町の整備内容は、「和水町かわまちづくり推進協議会」、「和水町かわまちづくりワーキンググループ」で計画段階から地域住民等と継続的に協議を重ねており、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が適切と考えている。

(3)コスト縮減の方策

◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

◆イベント開催前には地域や関係者が主体となった除草作業を実施し、イベント開催時にも参加者と協働の清掃活動を実施する等の啓発を行うなど、地域と協働の維持管理による管理費の縮減が期待されている。



「川下り」開催前の主催者・関係者による除草活動(和水町)



「水辺で乾杯」開催時の事前清掃活動(和水町)



「川びらき」開催時の草抜き運動(菊池地区)

4. 対応方針（原案）

①事業の必要性に関する視点

・菊池地区においては、令和２年度～４年度に整備を行い、整備完了後は地域住民による日常利用のみでなく川びらき等のイベント開催の場として有効活用されている。整備完了後は、推進協議会等の位置付けを見直しつつ、営利活動の展開も視野にいれながら、地域住民が主体となり菊池市と密に連携しながら利用と管理の両面を実践しているところである。
・和水町においては、町最大の観光地や熊本県北地域の玄関口として高いポテンシャルを有するが、まちとかわ、高水敷と水辺へのアクセスが十分でなく、河川敷に安全・安心・快適に利用できるまとまった空間が少ないため、水辺空間の整備が必要である。
・費用対効果は、**事業全体で６．０、残事業で４．７**である。

②事業の進捗の見込みの視点

・菊池地区においては、当初の計画から２年前倒して整備を完了し、令和４年度に整備が完了した。令和５年度からモニタリングを実施しており、**令和９年度に完了予定**である。また、整備前から継続的に社会実験を行い、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、**地域の協力体制やイベント開催が確立されている**ことから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。
・和水町においては、かわまちづくり計画に基づき、整備の詳細を検討中の段階であり、令和１６年度に整備完了予定である。令和１７年度以降はモニタリングを実施し、**令和２１年度に完了予定**である。また、整備前から社会実験を行い、令和８年度も継続して実施予定であるため、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、**地域の協力体制が確立されている**ことから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

③主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減や代替案立案等の改善の視点

・和水町かわまちづくり計画の新規登録に伴い、**総合水系環境整備事業計画について前回評価時から変更する。**
・近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による**新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針**である。
・イベント開催前には地域や関係者が主体となった除草作業を実施し、イベント開催時にも参加者と協働の清掃活動を実施する等の啓発を行うなど、**地域と協働の維持管理による管理費の縮減**が期待されている。

④対応（原案）

・当該事業は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点、主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減、代替案立案等の改善の視点から検討した結果、「**改善継続**」が妥当であると考える。

5. 関係自治体の意見等

◆熊本県知事

学識者懇談会に諮る対応方針（原案）の作成に係る意見照会について（回答）

今回意見照会のありました菊池川総合水系環境整備事業に関する国の「対応方針（原案）」については、異存ありません。
なお、今後の整備やモニタリング調査等の実施にあたっては、地域住民や関係機関等と十分に連携して事業を進めるとともに、周辺のまちづくり等に合わせ、安全に安心して利用できる水辺空間の保全・創出に努めていただきますようお願いします。

◆学識者懇談会審議結果

菊池川総合水系環境整備事業再評価について審議の結果、対応方針（原案）どおりとすることに同意し、引き続き「改善継続」することを了承した。
なお、水辺整備事業を行うにあたり河川生態系、河川景観に対して十分に配慮するとともに、事業整備後の維持管理、安全利用に関する普及啓発および河川の情報発信については、官民連携の上、進めて頂きたい。